



天気はどうして変わるの

風がふく

地球のまわりは、大気（空気）でおおわれています。

空気は暖められると軽くなって上にのぼり、冷やされると重くなって降りてきます。空気が暖められたり冷やされたりすると、空気が上下の方向に動きます。それにもなると空気は、水平の方向にも動きます。このような空気の動きを対流といい、ストーブで部屋の中が温まるときの、空気の動きと同じです。

空気が水平の方向に動いているものを、風とよんでいます。

雲ができる

空気中には、水蒸気がふくまれています。地表付近の空気が暖められると、水蒸気をふくむ空気は軽くなり、上昇気流となって上空にのぼります。上空は、温度が低くなっていて、のぼってきた空気は、まわりの空気に冷やされます。

空気が冷やされると、空気にふくまれていた水蒸気は、小さな水や氷のつぶになり、これらが集まって雲になります。雲の中には、雨を降らせる雨雲もできます。

風の動きと雲

大気中には、水蒸気や雲・雨雲など、いろいろなものがあります。それらが風のはたらきによって、地球のまわりを動き回り、雨や雪を降らせたりしています。そのために、強い風がふく日があったり、よく晴れた日、くもりの日、雨や雪の日があるなど、天気はいろいろに変化します。（監修・村山 貢司）

